

# 腹栄中学校にグランドピアノ寄贈

## 熊本地震を乗り越えて

このたび、平成音楽大学の講師で音楽療法士の小林真寿子さん（熊本市）が腹栄中学校にグランドピアノを寄贈、6月1日に腹栄中学校体育館でコンサートが開催されました。



### 熊本地震で被災

#### 行き場を失った思い出のピアノ

小林さんは、熊本市の医療機関で音楽療法を行い、終末期の高齢者やリハビリに励む患者を勇気づけてきました。その施設が、昨年発生した熊本地震で被災。自宅も半壊し音楽療法が続けられなくなり、引受先を探していました。

そんな中、音楽療法士仲間である腹栄中学校生徒の保護者でもある山本恭子さん（向野区）を紹介して寄付が実現しました。

小林さんは「これからは、未来を担う子どもたちと共に第2の人生を歩んでいってほしいと願い、寄付することを決めました。運ばれるときは泣きました。20年の思い出が詰まったピアノなので。でも、子どもたちの新たな出会いがあり、これからは教育の現場で活躍していくこともこのピアノの使命だと思っています」とうれしそうに話しました。

絆の大切さ、音楽の素晴らしさを感じてほしい

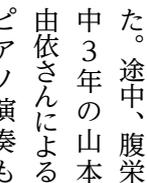
コンサートには、全校生徒197人と職員に加え、保護者や地域住民、老人福祉施設の入所者やスタッフなど約80人が詰めかけました。



コンサートでは、小林さんがこれまで一番数多く弾いてきたという「ふるさと」の演奏から始まり、地震での体験談なども語られました。そのほか、同音大の村橋和子准教授の独唱や学生、卒業生の5人とサクソフフルートのセッション、同中学校生徒との合奏を交えながらクラシックや歌謡曲を演奏。音楽療法士として音楽の素晴らしさを伝えました。途中、腹栄中3年の山本由依さんによるピアノ演奏も披露され、盛況のうちに幕を下ろし、生徒代表から花束、町から感謝状が贈呈されました。



小林さんが熊本地震での体験を話す生徒たちへ



山本由依さんがピアノを演奏した様子。

### 腹栄中学校 松永光親校長

「この素晴らしいご縁をいただけたことに深く感謝します。助け合うこと、支え合うことを、私たちは学んでいかななくてはなりません。これまでたくさんの人たちを支え、熊本地震を乗り越えてきたピアノがここにあります。地震による被害が少なかった私たちですが、大切にこのピアノを引き継いでいかなければなりません」と熱く生徒に語りかけました。



### 生徒代表でピアノを演奏した山本由依さん（3年生）

「私は3歳からピアノを始めました。腹栄中にピアノが来ると聞いてとてもうれしく、楽しみにしていました。これからは生徒みんなで大切に使っていきます」と話しました。



山本さんがピアノを弾く生徒代表